産婦人科領域における KW-1062 の使用経験

高橋　晃・近藤　泰・横山重喜・後藤忠雄
静岡県立中央病院産婦人科

KW-1062 は，アミノ配糖体系抗生物質 XK-62-2 の硫酸塩である[1~3]。本剤は，他のアミノ配糖体系抗生物質と同様の抗菌スペクトラムを有し，その効果は殺菌的である。

今回，私たちは本剤を産婦人科領域感染症に試みる機会を得たので，その臨床成績を報告する。

I. 対象・使用方法

対象は，静岡県立中央病院産婦人科に昭和 51 年3月から7月までの4か月間に入院した産婦人科患者のうち，骨盤内感染症状を示したもの計5名である。内訳は，骨盤腹膜炎2例，卵管膿腫1例，骨盤死腔炎1例，産褥熱1例であり，尿路感染症は除外した。

投与方法は筋注とし，投与量は1回量 40 mg を1日1～2回，総投与量は 480 mg～800 mg，1例当りの平均投与量は 632 mg であった。投与期間は 6～10 日間で，平均投与期間は 8.2 日間であった。

効果判定基準には，分離菌の消長，自他覚症状の消失などを用いて総合的に判定した。投与開始後3日以内に分離菌の消失，自他覚症状が著しく改善し治癒したものを著効，3日以内に改善の傾向を示し，その後に分離菌の消失をみて治癒したものを有効，投与終了後も分離菌を認めたものを無効とした。また，投与を中断した1例は不明とした。

臨床検査としては，血液検査（Ht 値，Hb 量，RBC，WBC, PLT，白血球分類），生化学検査（BUN，クレアチニン，PSP, GOT, GPT, Al-P, LDH，総蛋白質量，蛋白質分画）を行ない，その他必要に応じて ESR, GFR, RBF，聴力検査などを行なった。

II. 症　　例

症例 1　K. M.　44 y. o.　骨盤腹膜炎

激しい下腹部痛にて来院。頸管性帯下中より *Klebsiella* および *Peptostreptococcus* が多数分離され，感受性検査にて PC を除く抗生物質に感受性を有した。同日から KW-1062 を初日 40 mg，翌日より 80 mg 投与したところ，投与開始後3日目には帯下中の *Klebsiella*, *Peptostreptococcus* ともに消失し，下腹部痛も軽減した。WBC は 14,200/mm³ から 5,200/mm³ に減少した。総投与量 600 mg，生化学等の検査値には異常なく，著効と判定した。

症例 2　M. F.　31 y. o.　骨盤腹膜炎

下腹部痛が持続するため来院。ダグラス窩より吸引し得た膿汁中から G. N. B. が多数分離され，GM に感受性を有した。翌日から KW-1062 を1日 80 mg 投与したところ，投与開始後5日目には，ダグラス窩からの吸引物は黄色透明な腹水となり，その中から菌は分離されなくなった。それにつれて下腹部痛も軽快した。10 日間の投与終了後には，ダグラス窩からの吸引物も消失した。総投与量 800 mg。なお，投与開始後9日目に一過性の耳鳴を訴えたが，投与終了後は消失し，聴力検査でも異常を認めなかった。また，投与開始前に GOT 86, GPT 87 とやや高値であったが，投与中に正常値へ戻っ

Fig. 1　Case 1 K. M.　44 y. o., Pelveoperitonitis

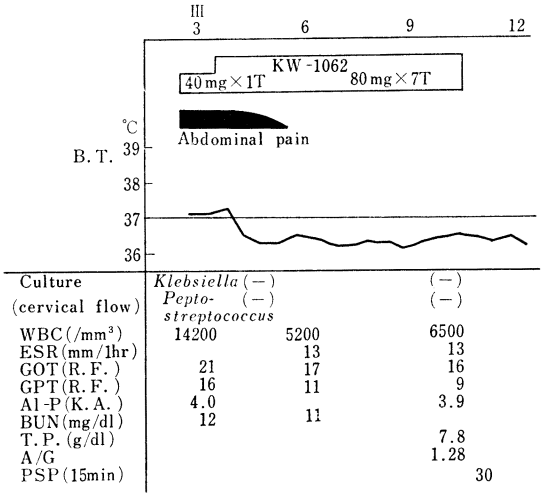


Fig. 2　Case 2 M. F.　31 y. o., Pelveoperitonitis

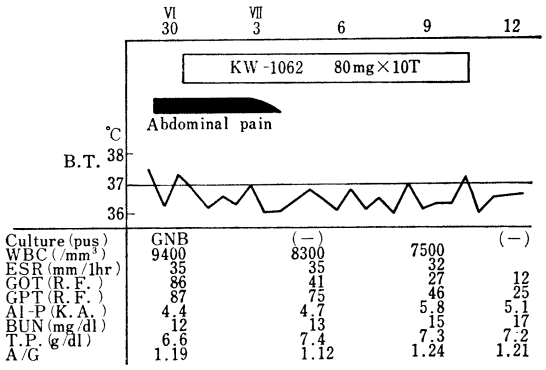
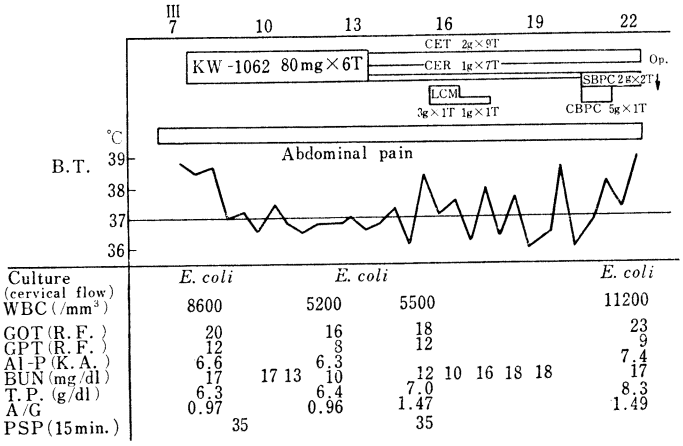


Fig. 3 Case 3 Y. A. 34 y. o., Pyosalpinx



た。有効と判定した。

症例 3 Y. A. 34 y. o. 卵管膿腫

腹痛とともに 33 度をこえる発熱があり，左付属器の部分に圧痛を伴なう抵抗を触れた。CEX 1 g/日投与したが，臨床症状の増強をみた。頸管性帯下中から *E. coli* が多数分離され，感受性検査にて TC を除く抗生物質に感受性を有した。KW-1062 を 1 日 80 mg 投与開始したところ，2 日目から下熱したが，腹痛は持続し，帯下中の *E. coli* は消失しなかった。投与開始後 4 日目から軽度の耳鳴を訴えたため耳鼻科受診，聴力検査にて右 20 dB～30 dB 感音系難聴，左 30 dB～40 dB 伝音系難聴をいずれも低音域で認めたが，薬剤によるものではない，との結果を得た。6 日間，総投与量 480 mg にて本剤の投与を中止した。以後，CET, CER, LCM, SBPC, CBPC を投与したが，再び発熱を認めるとともに，白血球増多，腹痛増強したため，開腹術を施行した。腹腔内に約 200 ml の膿汁貯留，左卵管は拇指大，左卵巣は鶏卵大に腫脹し，中に膿汁貯留，いずれからも *E. coli* が

Fig. 4 Case 4 Y. M. 34 y. o., Parametritis

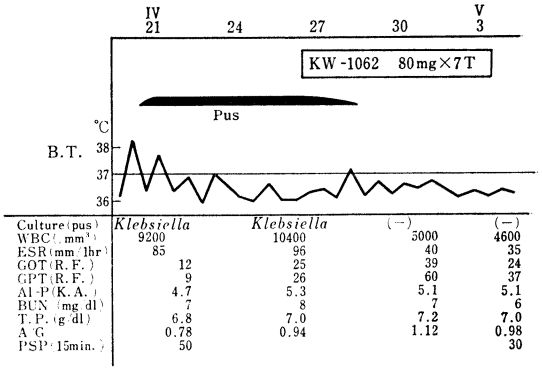
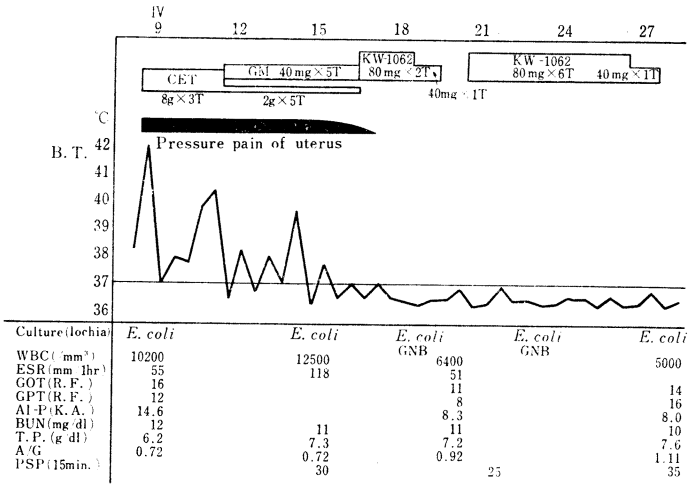


Fig. 5 Case 5 K. T. 32 y. o., Puerperal fever



分離された。腟上部切断術および左卵巣卵管摘出術を施行，手術翌日から下熱，軽快した。効果判定は不明とした。

症例 4 Y.M. 34 y.o. 骨盤死腔炎

子宮頸癌 Ib 期にて岡林式広範性子宮摘出術を施行，術後8日目に 38 度をこえる発熱と共に腟断端より膿汁の排出があり，その中から *Klebsiella* が多数分離された。感受性検査にて PC を除く抗生物質に感受性を有していた。腟断端を開放し排膿をはかったのち，KW-1062 を1日 80 mg 投与開始したところ，投与開始後4日目には菌の消失をみ，同時に WBC も 10,400/mm³ から 5,000/mm³ へ減少した。総投与量 560 mg。なお，投与開始後5日目に GOT 39, GPT 60 とやや上昇したが，投与終了後2日目には正常値に戻った。他の検査値には異常なく，有効と判定した。

症例 5 K.T. 32 y.o. 産褥熱

妊娠 10 カ月にて 3,550 g の成熟女児を分娩，分娩所要時間 12 時間3分，前期破水はなかった。産褥2日目から，39 度をこえる発熱と共に，子宮底部に圧痛著明となり，悪露中から *E. coli* が多数分離された。感受性検査にて CER, CEZ, CET, CLDM, KM, GM に感受性を有し，MIC は GM, KW-1062 共に 1.56 μg/ml であった。CER, CET 投与にて症状軽快せず，GM 1 日 40 mg 投与したところ，下熱と共に子宮底部の圧痛も軽快した。しかし，悪露中の *E. coli* は消失しなかったため，KW-1062 を1日 80 mg 投与したところ，臨床症状は軽快したままであったが，悪露中の *E. coli* は消失しなかった。投与開始後3日目から，*E. coli* と同時に G.N.B. も検出されるようになったが，投与終了後には，再び *E. coli* だけとなった。総投与量 720 mg。生化学等の検査値には異常なく，無効と判定した。

III. 考按ならびに結語

アミノ配糖体系抗生物質が，他の抗生物質にはみられない抗菌力の強さを示すことは，臨床上しばしば経験するところである。同時に，アミノ配糖体系抗生物質の副作用である腎障害および第8脳神経障害も，その使用の際に忘れることはできない。

今回，私たちは5例の骨盤内感染症にアミノ配糖体系抗生物質である KW-1062 を使用し，著効1例，有効2例，無効1例，不明1例の結果を得たが，症例数が少ないため，統計的な考察は不可能である。症例3では，KW-1062 の使用開始と共に，速やかに下熱がみられたが，耳鳴の訴えがあったため，菌の消失を待たずに投与を中止した。その後，他の抗生物質はいずれも無効であったため，開腹術を施行したが，KW-1062 の継続使用が可能だった場合，あるいは治癒にむかった可能性も考えられる。症例5では，KW-1062 投与開始前に GM を使用し臨床症状の改善をみており，本剤の効果については速断できないが，菌の消失がみられなかったため，無効とした。

本剤投与中の随伴症状としては，症例3を含めて一過性の耳鳴を2例に認めた。また，異常値としては，GPT の軽度上昇を1例に認めた。後者は KW-1062 の投与終了後2日目には正常値に戻った。これらの随伴症状および異常値と本剤投与との因果関係については不明であった。

以上，骨盤内感染症5例への本剤の使用経験について述べたが，副作用の発現に充分注意すれば，産婦人科領域での使用は可能であると考えられる。

文　献

1) OKACHI, R.; I. KAWAMOTO, S. TAKASAWA, M. YAMAMOTO, S. SATO, T. SATO & T. NARA: A new antibiotic XK-62-2 (Sagamicin). I. Isolation, physicochemical and antibacterial properties. J. Antibiotics 27 (10): 793～800, 1974

2) NARA, T.; I. KAWAMOTO, R. OKACHI, S. TAKASAWA, M. YAMAMOTO, S. SATO, T. SATO & A. MORIKAWA: New antibiotic XK-62-2 (Sagamicin). II. Taxonomy of the producing organism, fermentative production and characterization of sagamicin. *ibid.* 28(1): 21～28, 1975

3) EGAN, R.S.; R.L. DEVAULT, S.L. MUELLER, M.I. LEVENBERG, A.C. SINCLAIR & R.S. STANASZEK: A new antibiotic XK-62-2. III. The structure of XK-62-2, a new gentamicin C complex antibiotic. *ibid.* 28(1): 29～34, 1975

CLINICAL EXPERIENCE WITH KW-1062 IN INFECTIONS IN OBSTETRICS AND GYNECOLOGY

AKIRA TAKAHASHI, YASUSHI KONDO,
SHIGEKI YOKOYAMA and TADAO GOTO
Department of Obstetrics and Gynecology
Shizuoka Central Prefectural Hospital

KW-1062 was administered intramuscularly to 5 cases of infectious diseases in the field of obstetrics and gynecology. A daily dose of 40 mg~80 mg was injected for 6~10 days. The results obtained were as follows.

1. KW-1062 was remarkably effective in 1 case, effective in 2 cases and ineffective in 1 case, and the effect was unknown in 1 case.

2. As for the side effect of KW-1062, transient tinnitus was observed in 2 cases, and elevation of GPT was obtained in 1 case, which recovered to normal values on the 2nd day after treatment with KW-1062.